



平成 27 年 3 月 3 日(火) 成果報告会に行ってきました 編

一昨年度までの 3 年間、1 千万円の支援をいただいた(財)国土計画協会(旧・高速道路交流推進財団)の「観光資源活用トータルプラン」活動実績報告会に行ってきました。年に一度とはいえ、5 回目ともなると半蔵門駅から会場までは通いなれた道です。

発表団体ほか、5 団体(長野県商工会連合会、日豊海岸ツーリズムパワーアップ協議会、北陸飛騨3つ星街道誘客推進協議会、東北センターライン・未来プロジェクト推進協議会、NPO 法人シクロツーリズムしまなみ)の方々も傍聴にいられていました。津久見市の方は、「前任者に勉強して来い！と言われ初参加ですが、色々な取り組みがあって本当に勉強になりますね。」とおっしゃっていました。

このたび、3 年の活動期間を終えて報告されたのは 3 団体。①村上市観光協会(新潟県)。これまでの観光スポットを PR する方法をやめ、海・山・里にある「なりわい」と伝統文化を体感できるプログラムを構築。そこから新たに地域内外の交流が始まっています。交流人口の拡大により、これから 300 万人の観光を目指していくとのことでした。すごい！

②和東町雇用促進協議会(京都府)。90 ページにおよぶ片面カラーの資料を役場が印刷しているだけでも、関係者の熱意が伝わってきます。4,400 人の町が消滅するかも?!の危機感から、主産業である茶業の多様化を町の予算とも連携させながら進めていて、全く羨ましい限りでした。能代だって「木材」でできないことはないと思うのですが。

③児島商工会議所(岡山県)。江戸時代からの繊維のまち、国産ジーンズ発祥の地という糸偏の資源を紡いで観光資源の磨き上げをはかっています。活動を通して県や市の支援を受け、連携したことで県道の舗装ができた、内閣府の特定地域再生事業の指定を受けたといった行政との連携成果は(和東町と同様に)能代で足りない部分だと感じました。

最後に、支援期間満了後のご報告が北海道ガーデン協議会からあり、これまでの活動ノウハウを生かし、全国各地のイノベーション推進システムの構築・パッケージ化を考えているとのことでした。

こうした全国最先端の取り組みは、来年度からは受賞団体の交流の場「国土計画協会地域連携協議会」で聴講できます。各地個別の知恵がみんなの知恵となる場に、是非、NW の団体の方や役所の若い方に参加していただきたいと思っています。

一般財団法人国土計画協会のホームページ:

<http://www.kok.or.jp/index.html>

文: 渡辺 千明



毎年各地のご報告を聞いていると、地域資源や地域事情は違っても、市民・役所・事業者の本気とコラボレーション、そのための使い勝手の良いほどほどの資金が肝要ということが分かります。では、能代ではどうするか？



村上市観光協会と長岡造形大学の学生・教員のプロジェクトによる「なりわい文化」ガイドブック。無料配布するには勿体ない出来映えです。従来の観光ガイドブックでないところがポイントです。



各団体のご発表はもちろんですが、選好委員の先生方のご質問やご指摘は当該団体以外にもあてはまる事が多く、足元を見直す契機になります。



今年の交流会でも沢山のお料理ができましたが、名刺交換や談笑に忙しく、なかなかお箸が進みませんでした。